レッスン：SPA NO.24

テーマ：現在のパーソナリティーのサイコノエティカルな問題

SPA24/K6./J16DOC/KE6/96/16

私の兄弟・姉妹たち、

スピリット、光、火の子供たち。私たちはいつも主、絶対、主の聖性に抱かれています。

以前のレッスンでは創造界について述べてきましたが、創造界は神による特定の目的を有する黙想の結果です。

これら創造の諸世界はマインド、様々なバイブレーションのマインドから創造されており、創造された全てはマインドであり、またマインドを通じて現れています。マインドは聖なるものですが神ではなく、神、絶対存在から来るものです。しかし、マインドが形を帯びるためには背後で**生それ自体**(Life Itself)を必要とします。さらにまた、マインドは生の海(ocean of Life)のなかで泳いでいます。マインドを活性化するのはその生の海なのです。創造界にあるすべては主の愛のなかにあります。全てを活性化する存在とは絶対愛であり、汎宇宙的キリストロゴスとしてのキリストロゴスです。

そうです。創造界、それは神の黙想、つまり神のエバレスキアの結果ですが、その創造界とは調和の諸世界です。なぜでしょうか？なぜなら、前に述べたように、全ては主の絶対愛のなかで泳いでいるからです。そうです、絶対愛がありますが、また聖霊としての絶対存在のダイナミックな現れがあり、この聖霊のイデアのなかにはアークエンジェルのすべてのオーダーがあります。アークエンジェルたちの仕事とは神の黙想の活動を助けることです。なぜなら、創造界はアウタルキー（＊自己充足状態）のなかにあり、それは神の黙想の活動の結果だからです。全ては絶対存在のなかにあり、主の聖なる黙想のなかにあります。絶対存在のなかにあるものはすべて調和のなかにあります。創造界の不動の法則として調和があります。

さらにまた、創造の諸世界のなかで、人間のイデアを通じた生の現れがあり、魂のセルフ・エピグノシスとしての生があります。魂のセルフ・エピグノシスはモナドとしての人間の現れです。

生それ自体の諸世界には生があります。生それ自体の諸世界とは四つのヘブンであり、それは高次のヘブンであり、存在の諸世界であり、そこでは生はその本質である特質を完全に現わしています。そうです、

そこではモナド・セルフは他のすべてのモナド・セルフと全く同じです。グループとしての人間がいますが、それぞれの魂のセルフ・エピグノシスは全て同じで、違いはありません。

モナド・セルフは他の全てとの違いを認識する自己実現したセルフではありません。しかし、それら存在の諸世界は調和であり、それらの諸世界は元型、イデア、法則、原因の諸世界です；結果はそこにはありません。結果はそこには存在しないと言うことはできませんが、結果はありません。なぜなら、それらの世界は実存の世界ではなく、存在の世界だからです。

それでは、何故そこでは結果がないのでしょうか？なぜなら、生(Life)は不動の法則に逆らうことはないからです。モナド・セルフの黙想は絶対存在、絶対調和の神の黙想と少しも違いません。しかし神の黙想は活動し、それが活動すると人間はその目的を達成しなければならず、今や魂のセルフ・エピグノシスは別の“低次のヘブン”に入ります。なぜなら、実際には高い、低いというようなものはなく、全ては全てのなかにあるのですが、そこにあるのはマインドのバイブレーションの違いです。様々な現れの世界を決めるのはマインドのそれら異なったバイブレーションです。

スーパーサブスタンスの諸世界としての存在の諸世界があり、三つの低次の諸世界があります。それらはもはや存在の世界ではなく実存の世界です。それらはサブスタンス、超物質、物質という三つのマインドの諸世界です。

Page 2

存在の世界における魂のセルフ・エピグノシスとしての生は、そこからの微細なスパーク以外のなにものでもなく、それが実存の諸世界に入ります。その微細なスパークはサブスタンスをまとい、いわゆるノエティカル体が形成されます。そこでの人間はまだパーソナリティーではなく、人間はさらにもっと低いマインドのバイブレーションに入ります。そして超物質(supermatter)をまとい、サイキカル体が形成されます。

ですから二つの体をまとった人間であるサイコノエティカル体があり、それは実存の世界のなかですが、実存の諸世界における上の二つの世界だけに存在します。しかし、人間はまだ生の特質を完全に現わしています。人間は完全に諸法則、調和の諸法則という創造界における不動の法則に同調しています。モナド・セルフはまだ自己実現しておらず、そこでも人間はグループとなっていますが、しかし目的を完遂するために生が人間のイデアに与えているすべての可能性、能力を具えています。そして、それらの能力の一つは性の二元性ですが、それらはまだ表現されていません。そして今や実際にその能力を現すセルフ・モナドとしての人間ができます。つまり同時にアダム、イブとしての存在です。それはロゴス的および聖霊的現れの両方であり、勿論絶対英知を伴っています。なぜなら、生それ自体の現れとしての人間はまた絶対生の全ての特質を有しているからです。

ご存じのように、絶対存在の主な特質は絶対英知、絶対パワー、絶対善あるいは言い換えれば絶対愛であり、人間はその本質を表現しながらもそれらの特質を有しています。そしてサイコノエティカル界において人間はその本質を完全に表現しています。人間はいわゆるサイコノエティアカルなパラダイスに住んでおり、実存の世界でありながらそこでは結果は存在しません。しかし、人間は目的を完遂する必要があり、目的の完遂のためにたどるべき道を行かねばなりません。

そして、今やマインドのさらに低いバイブレーションのなかに入ってきます。それらは物質としてのバイブレーションであり、人間は肉体を持つようになります。初めての転生として、この瞬間から人間の意識は境界、制限のなかに入り、無知のなかで自らを現わし、また二元性という能力も実際に現わします。あらゆる様々な形での二元性です。男性・女性という性の二元性があり、また人間は別の形の二元性を現わしています。それによって人間は自分が存在することを“理解”できるようになるためです。それがどのように働くかについては以前に説明しましたが、（＊二元性の結果として）思考を現すことができ、人間は同時に問いと答えを表現しているのです。

人間は何かにフォーカスし、そのフォーカスすることによって何かを理解します。人間はそのフォーカスを別のフォーカスと比較し、その比較を通じて何かを理解するのです。それは二元性の能力であり、今や人間は二元性の諸世界、対立する二極に入ったのです。なぜなら、光を理解するためには、人間は光をその反対である闇と比較しなければならないからです。冷たいという意味を理解するためには、人間は熱いと比較しなくてはなりません。そのように比較を通じて人間は何かの意味を創造するのです。

調和についてはどうでしょうか？二元性の諸世界、生の現象の諸世界に調和が存在するでしょうか？なぜならば、人間は今やもはや生の特質を現わしておらず、現在のパーソナリティーとなっています。それは思考・行動の仕方以外の何ものでもなく、光の影です。しかし勿論、生のスパークによって活性化されています。

それでは調和という不動の法則についてはどうでしょうか？現在のパーソナリティーとしての人間はそれら調和の諸法則に同調できるのでしょうか？答えはノーです。無知にある人間は調和をバランスに変え、今や原因・結果の法則があります。勿論、これら全ては神の計画のなかにあるので、現在のパーソナリティーとして人間はそのことを咎められるべきではありません。全ては神の計画のなかにあり、人間はさまざまなアークエンジェルのオーダーによって、これら全ての理解についてあらゆる助力が与えられています。

そうです、今や原因からもたらされた結果があり、通常、結果は苦しいものです。それでは苦しみとは何でしょうか？それは実際の何かであり、それは人間が理解できるものであり、人間が無知から抜け出す上で助けになるものです。苦しみとは意味であり、リアリティーではありません。喜びについても同じことが言えます。喜びは意味であり、リアリティーではありません。

Page 3

無知の諸世界にあるものは全ての意味であり、無知のなかにいる人間にはリアリティーにアプローチすることはできません。それでは人間は何にアプローチできるのでしょうか？相対的リアリティーの様々な段階です。実存の諸世界のなかでは誰も、例えその人がサイコノエティカル的にどれほど成長していようとも、リアリティーに到達したと言うことはできません。

**リアリティーは現在のパーソナリティーが到達できるものではないからです。**

**自己実現した現在のパーソナリティーとして戻り、自己実現した魂のセルフ・エピグノシスとなっても、それでも絶対リアリティーとは何かを理解しないでしょう。**

**私たちが絶対リアリティーの一部となる時初めて、絶対存在について“知る”ことができるでしょう。それも神の計画のなかにあり、私たちがいわゆるテオーシス（＊神との再合一）に戻り、絶対存在、調和と一つになったとき、知ることができるのです。**

調和は創造界のあらゆる世界にあり、マクロコスモス（＊大宇宙）にもメゾコスモス（＊中宇宙）にもあり、様々な宇宙にもあり、それらの宇宙における様々な太陽系にもあり、また創造界におけるミクロコスモス（小宇宙）である惑星にもあります。しかしまた、最小のなかにも調和があり、エレメントの原子のなかにも調和があります。もし私たちが最小のものを学べば、それは最大のものを学んだのと同じであり、反対も言えます。

現在私たちは原子について全てを知っていると考えていますが、本当は何も知ってはいません。繰り返しますが、最大のなかにあるものは全て最小のなかにもあります。

私たちの肉体のなかにある原子の数を数えることのできる人がいるでしょうか？そうです、この肉体にはどれだけのエレメントがあるでしょうか？四つのエレメントがあり、それは私たちの惑星で知られているエレメントです。どれほどの原子がありますか？数え切れません、最小のなかに無数あります。物質の原子としてそれは創造界のなかにある全てです。そしてまた原子を活性化するスパークがあり、それは生それ自体としての神のスパークです。なぜなら、何回も述べたように、全てを活性化するのは神だからです。神とは生の海、愛の海、絶対愛です。

そうです、気づきのレベルの現れがなければ、物質でさえ調和のステートにあります。しかし…ここに“しかし”があります…人間の無知による干渉によって、この調和が壊され、肉体あるいは現在のパーソナリティーの他の体に病気としてのいろいろな結果が生じます。そして勿論、以前のレッスンで、思考・行動の仕方の結果としてなぜ肉体が病気になるのかを説明しました。なぜなら、最初は現在のパーソナリティーのセンターはハートのセンターにあり、三つのセンターが全てそこにあります。現在のパーソナリティーのセンターと言うとき、現在のパーソナリティーには三つの体があるので、センターと言うとき各体にとって良い健康を意味するセンターを言います。

ノエティカル体の良い健康のセンターは頭のセンターであるべきです。サイコノエティカル体にとって、それはハートのセンターであるべきであり、肉体にとってのそれは太陽神経叢です。しかし無知のなかにいる間は人間の三つのセンターは全部一つのセンター、ハートのセンターに集まっています。そのためにあらゆる病気はこのセンターの状態に依存しています。つまり、ストレス下などにある感情です。これ全てが肉体に影響をもたらし、エネルギー、つまりエーテル・バイタリティーを燃焼することによってあらゆる病気が生じます。実際には、エーテル・バイタリティーは十分に提供されています。というのも私たちはエーテル・バイタリティーのなかで泳いでいるからです。しかし肉体のあらゆる病気、もっともひどい病気でさえ精神分裂病（統合失調症）のさまざまな形に比べることはできません。

何回も繰り返し私たちは探究者たちに、気づきの上昇に向けて現在のパーソナリティーの不定形な諸体の再形成に向けてフォーカスすべきだと述べてきました。それによって諸体のセンターがそれぞれ正しい場所に移動するようにです。それで十分でしょうか？私たちがアドバイスしたのはそれだけではありません。やるべき最も重要なことの一つは、それらの三つの体を調和的に保ち、その結果、現れをバランスの取れたものとすることです。私はアンバランスな人間が高く発達したノエティカル体あるいはサイキカル体を現わすよりむしろ、バランスのある現れとしての人間でありたいと思います。ですから、諸体の形を再形成するときには注意する必要があり、それを調和的な状態にして、その人がバランスのある現れとなるべきです。

Page 4

**アンバランスの一番目の状態、それはサイキカル体およびノエティカル体の間のアンバランスです。両者が異なったステートにあるというアンバランスです。**これは非常に難しいケースです。何が起きるでしょうか？サイキカル体とノエティカル体が分離し、動きが生じ、両者の間に絶えず動きが生じています。五つの超感覚を使っている人なら実際にその状態を見ることができます。二つの体が一緒になって一つになっているのではなく、一緒になっている形を示す線ではなくて、それら二つが一つになっていないのです。おそらく、一つの体は静止しており、もう一つの体が僅かに動いているのが見えるでしょう。サイキカル体とノエティカル体の間にアンバランスがあると、そうなります。アンバランスな現れとなります。

それでは二元性についてはどうでしょうか？現在のパーソナリティーは生によって与えられた二元性という能力を現わしている、と述べました。

アンバランスな状態にあると、動き、二つの体の分離があります。現れについてはどうでしょうか。分離している場合、**意識はどこに根ざしているのでしょうか？何が起きているかというと、意識はピンポンの球のように動いています。ヨーヨーのように一つの体から他の体へと。**

そのためにそれらのパーソナリティーは心理的に非常に敏感で。高度の論理、さらには知識さえも表現することができるのです。肉体の病気は全てその特定の現在のパーソナリティーだけに限られますが、アンバランスな現在のパーソナリティー、つまりサイキカル体とノエティカル体の間にアンバランスがあるときには、不幸なことにそれは一回の人生だけに留まりません。肉体にある現在のパーソナリティーだけに限らず、（＊死後）サイコノエティカル界に移行してからも、そして時には転生して生まれ変わってもその状態が続きます。肉体の全ての病気は肉体だけに留まり、現在のパーソナリティーが死という現象に伴ってサイコノエティカル界で自らを現わすようになると、症状は消えますが、アンバランスなパーソナリティーの場合にはそうではありません。

実際、アンバランスの三つのグループがあります。私たちが述べたのは最初のアンバランスです。そのような状態にある現在のパーソナリティーに対処するのは困難です。なぜなら、そのパーソナリティーは自分がどこから自分自身を現わしているのかを認識できなければならないのですが…どこからと言うとき、それはサイキカル体あるいはノエティカル体のいずれから、という意味ですが…また、一つの体から別の体へと意識の動きについていくことが出来なければならず、それは簡単なことではありません。

さまざまな種類の薬でもこの問題を解決することはできません。一時的に抑えるだけです。その薬はどう働くのでしょうか？そのような薬は二つの体の間の動きを止めます。そのためにその種の薬を飲んでいる人は気分が重くなり、眠気を感じたりするのです。薬は二つの体を一つにして、感情と思考を一つに合わせようとするのです。

このような状態にあるパーソナリティーは非常に苦しい状態を経験しています。しかし、このタイプのアンバランスの最もひどい状態でも最悪ではありません。最悪なケースとは現在のパーソナリティーのすべての体にアンバランスがある時です。サイキカル体とノエティカル体の間にアンバランスがあり、さらにそれらの二つの体と肉体の間にアンバランスがある時です。これがアンバランスの最悪のケースで、その様なパーソナリティーを助けるのは非常に困難です。

そのような場合、現在のパーソナリティーは身体がないみたいで、身体なしに浮いているような感じがすると言います。そのようなパーソナリティーに対して両手で何かをさせる、何かの仕事をするために集中させるのはとても困難です。勿論、その人に何かをさせようとするのですが、他の分離した状態の二つの体と調和せず、そうなりません。分離したと言うとき、サイキカル体あるいはノエティカル体を通じて自分自身を表現しようとするとき、それがとても困難なのです。そのようなケースではヒーラー、精神科医師、心理療法家などに多くの知識が求められます。そのようなケースでは、実際にそのパーソナリティーは多くの転生に渡ってそのような状態が続きます。

さて、アンバランスにならないように非常に注意が必要であると言いましたが、何がアンバランスをもたらすのでしょうか？私たちが不動の諸法則に逆らうと、そのようなアンバランスを生む可能性があります。

Page 5

ですから、私たちが創造界の不動の法則を扱う時には、非常に注意する必要があります。ただ気づきを上昇させるように努めるべきです。それだけです。そして、現在のパーソナリティーの諸体を調和的に保つことです。テクニカルな手段、マジックなどは試みないことです。なぜなら、それら全ては創造界の法則に反しているからです。

そうです、残念なことに人間はこれら調和の法則に逆らうことによってパワーと能力を使用する方法を発見しました。そしてそのパワーを利用しました。そして前にも述べたように、調和は全てのなかにあるのですが、それは人間が自らのモナドセルフの自己実現を現わすべく人間が経験する神の計画のなかにあります。

前に、調和は物質の原子のなかにさえある、と述べましたが、人間が必要な経験を経る途上で、私たちは原子のなかの調和を保つためのコネクションが非常にゆるいいくつかの原子を見いだしました。そうではありませんか？不幸なことに人類はそれを発見し、今や原子爆弾、水素爆弾などを手にしています。コネクションがゆるいウラニウムなどです。そして人間が干渉することによって、特定の原子におけるゆらぎやすい調和がよりゆるくなり、その特定の原子の調和を保っているパワーと等しい、恐るべき爆発が生じます。原子内の調和を保っているパワーがどれほどのものか想像できますか？実際、人間が原子についてそれ以上のことを理解していないのは、有り難いことです。

三つ目は現れの二つの体、つまり思考と感情の二つの体ですが、バランスの取れたサイコノエティカル体があり、今やそれと肉体とのコネクションがゆるくなっているとどんな結果になるでしょうか？てんかんという病気のなかには、そのような原因で生じるケースもあります。そしてまたパーソナリティーが高熱を出すと痙攣が生じる場合がそうです。特に幼い子供の場合など。

それでは、なぜ痙攣が、なぜてんかんが起きるのでしょうか？そこで生じているのはまったく同じことです。バイブレーションがとても低い別のパーソナリティーたちが特定の肉体を支配しようとすると、現在のパーソナリティー、そのサイコノエティカル体がその侵入者を押し出そうとして痙攣が起きます。勿論、その作業は無意識に行われ、その結果として痙攣が生じます。この症状は現在のパーソナリティーが物質界にいる時にのみ発生し、サイコノエティカル界では発生しません。

それでは一番目、および二番目に戻ります。現在のパーソナリティーに働きかける時には非常に注意し、アンバランスを引き起こさないように注意する必要がある、と述べましたが、それで十分でしょうか？生憎、それだけでは十分ではありません。なぜなら、アンバランスの中には非常に突発的な感情的発作によって生じるものもあるからです。そして、もしパーソナリティーがそのようなアンバランスのスパークを過去生から持ってきている場合、時にそのアンバランスが生じます。ですから非常に強い感情表現には注意すべきです。そのような感情の上がり下がりによって影響を受けないようにする必要があります。

それがどのような結果をもたらすかわからないようなものにはタッチしないよう、大いに注意すべきです。これについては話すべきことはたくさんありますが、将来もっと詳しくお話しする機会があることでしょう。

私たちは主、絶対、神の聖性に常に抱かれています。

EREVNA/SPA24/DOC/KE6/J16